



⑩日本国特許庁

⑪実用新案出願公告

# 実用新案公報

昭53-8632

⑫Int. Cl.<sup>2</sup>

識別記号

⑬日本分類

庁内整理番号

⑭公告

昭和53年(1978)3月6日

A 01 K 87 / 06

8 A 23

6350 - 21

4

(全3頁)

1

2

## ⑮キヤスティングハンドル

⑯実 願 昭49-140373

⑰出 願 昭49(1974)11月20日

公 開 昭51-67288

⑱昭51(1976)5月27日

⑲考 案 者 武内修

入間市下藤沢1294オリムピック  
釣具株式会社内

⑳出 願 人 オリムピック釣具株式会社

入間市下藤沢1294

㉑代 理 人 弁理士 早川潔 外1名

## ㉒実用新案登録請求の範囲

先端に竿杆を接続し得るように形成したハンドル本体の中程に魚釣用リールの脚に係合載置する取付部を形成し、その取付部の前部に魚釣用リールの脚の前端が嵌入係合する凹嵌部を形成すると共に、その取付部の後部両側には案内溝を開設した案内壁を起立突設し、その左右の案内壁間に脚の後端を押える押え片を前後摺動自在に装着し、且その押え片の後部には螺杆を上下屈折可能に連結枢着し、該螺杆をハンドル本体の内部に貫挿通せしめ、その螺杆をハンドル本体の後部に回動自在に取付けた螺筒に螺合せしめ、その螺筒の回動操作により前方へ押し出した押え片と凹嵌部とにより脚を挟着保持するようにしたキヤスティングハンドル。

### 考案の詳細な説明

この考案はキヤスティングハンドルに於ける魚釣用リールの着脱取付機構の改良に係り、従来の取付機構に比較して、より簡単な操作により魚釣用リールの着脱操作を行なう事の出来る機構を提供せんとするものである。

以下、その実施の一例を図面について説明すると、Aはハンドル本体でその先端には竿杆aを嵌着接続する接続部7、中程には魚釣用リール8の

脚8'に係合載置する取付部1、その取付部1の後方には握り部9を同一体に形成する。

取付部1は魚釣用リール8の脚8'が密着係合し得るように平滑面となし、その前部には脚8'の前端が嵌入係合する凹嵌部10を形成し、後部両側には案内壁2を起立突設すると共に、その左右の案内壁2に案内溝3を開設して押え片4を前後摺動自在に取付ける。

押え片4は、その下面に脚8'が嵌入する凹部4'を切欠形成すると共に、後面には取付杆4''を同一体に起立突設してなり、そうした押え片4を前記した左右の案内壁2間に装着し、左右の案内壁2に開設せる案内溝3に涉つてピン11を嵌挿着して押え片4が案内溝3に沿つて前後摺動し得るようにする。

押え片4の取付杆4''には螺杆5をピン12で屈折可能状として連設し、その螺杆5をハンドル本体Aの握り部9内に嵌挿通すると共に、該螺杆5の後部を握り部9後端に回動自在に取付けた螺筒6に貫入螺合する。

螺筒6の後部は握り部9の後端に止着した接続環13を貫通して後方に突出せしめ、その突出端部に操作ツマミ14を一体的に取付ける。

従つて、操作ツマミ14を回動すると、それに連動して螺筒6が一体に回動し、それにより該螺筒6に螺合せる螺杆5は螺子作用によつて螺筒6内に引き込まれたり、或いは押し出されたりし、取付部1に係合載置せる魚釣用リール8の脚8'は取付、取り外し可能状となる。

即ち、魚釣用リール8を取付ける時は先ず操作ツマミ14を回動して螺杆5と一体の押え片4を取付部1の後方に引き寄せ、その状態で魚釣用リール8の脚8'を取付部1上に載置すると共に、脚8'の前端を凹嵌部10に嵌入せしめ、次いで操作ツマミ14を回動して押え片4を前方に押し出し、脚8'の後端に押え片4の凹部4'に係合する位置まで押し出して、魚釣用リールの定着を

3

4

完了する。

又、魚釣用リール8を取付部1より取り外す時は、操作ツマミ14を回動して螺筒6内に螺杆5を引き込み、押え片4を脚8'より離反させることにより、簡単に取り外すことが出来る。

本考案は以上の如く構成したので、螺筒を回動することにより、その螺筒に嵌入螺合せる螺杆は前後動し、それによつて該螺杆と一体の押え片は案内壁の案内溝に沿つて前後動し取付部上に係合載置せる魚釣用リールの脚に対して係合又は離反し、魚釣用リールの着脱が可能となる。

即ち、螺筒を回動する操作のみで魚釣用リールの取付・取外しを行なうことが出来、所期の目的を達成することが出来る。

又、螺筒の回動操作により螺杆が前後動するをもつて、押え片でリール脚を挟着保持する締付け度合いを強弱調節することが出来ると共に、螺筒と螺杆は螺合せるため、螺杆がひとりでに後方へ移動するといったことはなく、従つてキヤスティング動作によつて押え片が後方へ移動し、リール

脚が離脱するといった危険は全くなく、確実な係止状態を保持することが出来る。

更に、螺杆に対して押え片を屈折可能に連結枢着したので、取付部に対して螺杆が嵌挿せる握り部が傾斜状に連結せるも、押え片は取付部上を水平に前後動し、挟着作用が効果的に行なわれるものである。

#### 図面の簡単な説明

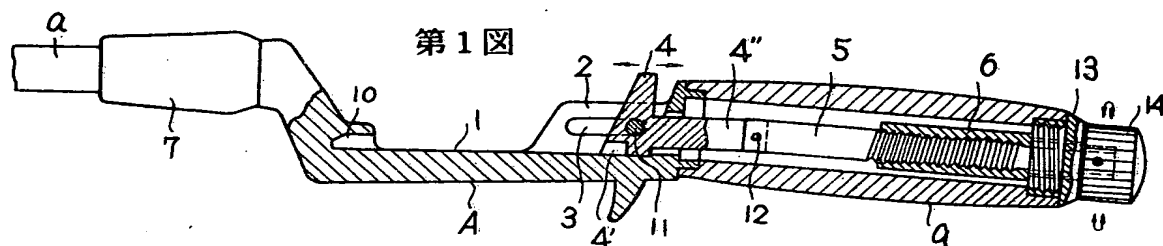
図面は本考案の一実施例を示し、第1図は正面図で一部切欠して示す。第2図は同平面図で一部を切欠して示す。第3図は魚釣用リールを取付けた状態を示す正面図で一部切欠して示す。

図中、A：ハンドル本体、1：取付部、2：案内壁、3：案内溝、4：押え片、5：螺杆、6：螺筒。

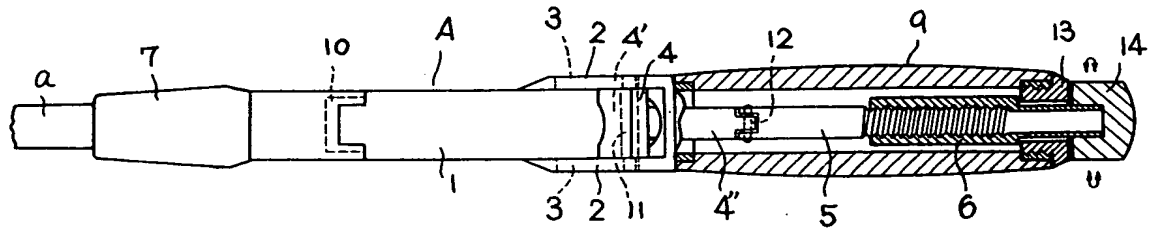
#### ⑤引用文献

実 開 昭49-122083

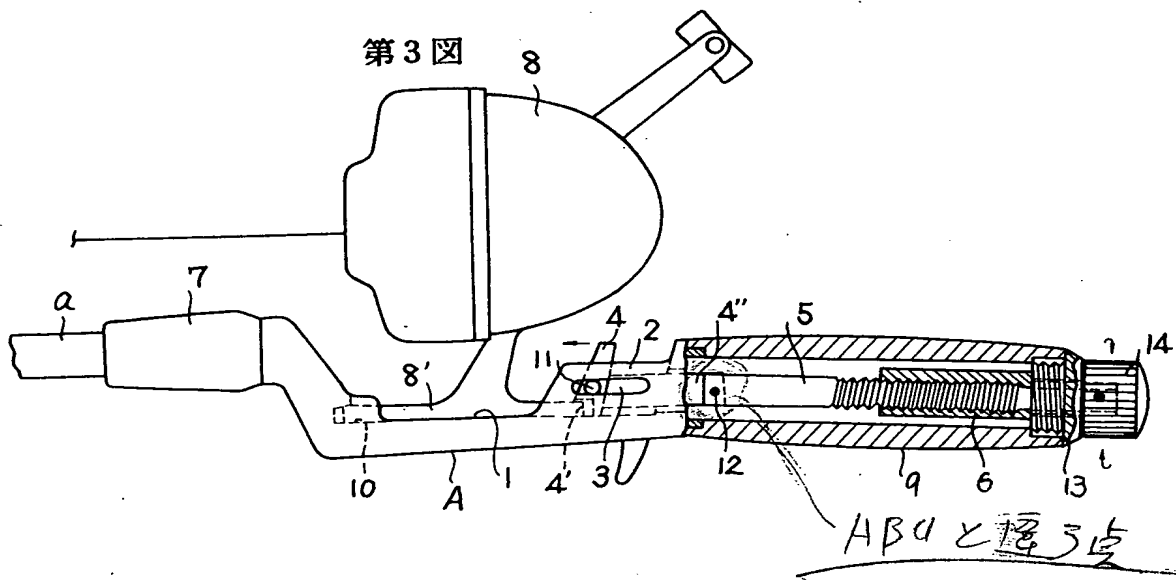
筆常出願



第2図



第3図



**THIS PAGE BLANK (USPTO)**